



私と情報処理

■ 河野 太郎

歴史ある情報処理学会の会誌「情報処理」の巻頭の言葉を書かせていただくことになり、感激しております。

慶應大学を中退し渡米した私は、両親にもらったスミス・コロナのタイプライターを留学先でずっと重宝しておりました。ところが卒業間際に、クラスメイトの一人がコンパックという会社が売り出した PC なるものを買いました。タイプすると緑色の文字が画面にずらっと並び、自由に文章の修正や入れ替えなどができる素晴らしい機械でした。

卒業後、1986 年 2 月に富士ゼロックスに入社すると、全世界のゼロックスの事業所がネットワークに繋がっていて、電子メールを送ったり、電子ドロワーで設計図を共有したりしていました。世の中ってこうなんだと感動しました。でも 1992 年に部品メーカーに移ってみると、パソコンが机の上にポツンと載っていました。あのう、パソコンが繋がっていないみたいですが、と尋ねると、走ってきた総務のおばちゃんがコンセントを揺さぶって、「大丈夫、繋がっていますよ」。

ゼロックスの企画部にいたある日、9600bps という高速のモデムの価格がとうとう 100 万円を切って、常務の決裁で購入できることになり、それを使って在宅勤務をやりました。おふくろが電話で、「今日から息子が自宅待機なのよ」と説明していました。その経験をかわれて、埼玉県志木市で行われた日本で最初のサテライトオフィスの実験の現場責任者を命ぜられました。志木ニュータウンに住むゼロックス社員をピックアップし、それぞれの上司に

■ 河野 太郎
衆議院議員

1963 年生まれ。米国ジョージタウン大学卒業後、会社勤務を経て、1996 年初当選、現在 7 期目。国家公安委員長等を歴任。現在、外務大臣。



サテライトオフィスでの勤務の許可をお願いして回りましたが、そんなことできるわけがないの一言で片づけられ、何度も足を運びました。その時と比べると技術は格段に進歩しましたが、今でも消費者庁の徳島移転に同じようなことが言われています。

1996 年の選挙に初出馬するときに、さあホームページを作らなきゃと言う私に、スタッフが「誰がそんなもの見るの」。それ以来、ホームページやブログ、ツイッターは本人の趣味扱いになり、今でも一人で全部やらされています。国会報告をせっかく書いても印刷と配布の費用が大変でした。そんな時にメールマガジンならただで発送ができると聞いて始めたメルマガ「ごまめの歯ざしり」がもう 20 年近くなります。

随分遠くへ来たものだと思う反面、最近でもパソコンで書く申請書に枠線、罫線が引かれていたり、エクセルのマス目一つずつに入力させて、印刷させて、押印させて、郵送させて、それを業者にデータ入力させて。

そろそろおかしいことに、それはおかしいと一人一人が声を上げましょう。誰も声を上げなければ変えようがありません。

声を上げて受け止める人がいないという人もいます。だったら研究者から一人、参議院の比例区で国会に送り出せばよいのです。それが民主主義です。

